

# いわた 文化財だより 第238号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和7年1月6日発行

## 目次

- 『長森膏薬関連資料』を公開 . . . . . P1~2
- ふるさと歴史たんけん隊  
『親子で発見！イワタの埴輪』参加者募集 . . . P3
- 旧見付学校で消防訓練を実施します . . . . . P4
- コラム『沖縄旅行の思い出』加藤一哉 . . . . . P4

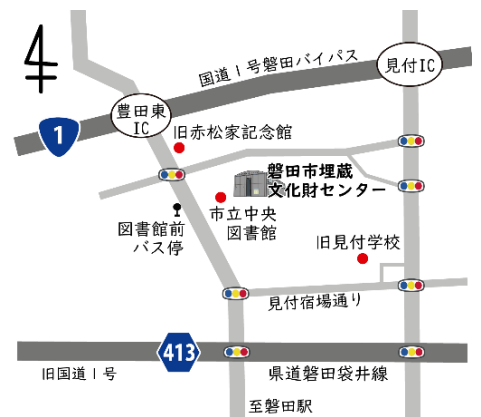
## トピック展示リニューアル

# 市指定文化財『<sup>こうやく</sup>長森膏薬関連資料』を公開

埋蔵文化財センターのトピック展示コーナーの展示替えをおこないます。新たな展示は、令和6年に所有者から市に寄贈された市指定文化財『長森膏薬関連資料』です。長森膏薬と展示のみどころを紹介します。

**展示期間 令和7年1月11日(土)  
~3月31日(月)**

- 【場 所】埋蔵文化財センター 1階展示  
(磐田市見付 3678-1)
- 【開館時間】8時30分~17時
- 【休館日】国民の祝日、振替休日
- 【駐車場】磐田市立図書館東側



## 長森膏薬とは



長森こうやく包・薬

長森膏薬は、江戸時代前期の万治年間（1658~1660）から長森の山田与左衛門家の家伝薬（※）として作られてきました。

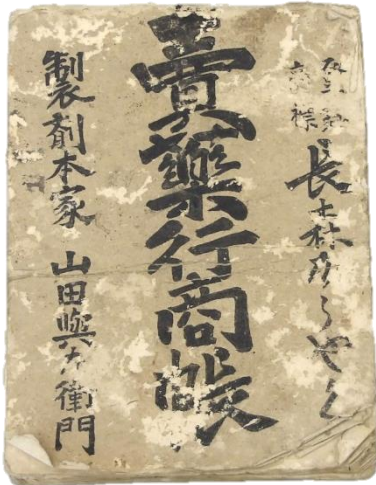
膏薬作りは、江戸時代前期の主人・山田与左衛門が夢枕にたった神様のお告げによって始めたと伝えられ、代々当主が作り方を受け継いできました。その作り方は、秘法とされ、たとえ当主の妻であっても明らかにすることは許されませんでした。

この膏薬は、切り傷やあかぎれ等に悩んだ当時の庶民にとってありがたい貼り薬・塗り薬でした。その効能は参勤交代の大名一行や東海道を行く旅人にも広く知られ、愛用されたといわれています。

現在は、製造・販売していませんが、昭和のはじめ頃には薬をいれた包みをさらに紙で包装して、販売していました。

江戸時代から店先や軒先に吊るした看板及び製法等を記した関係資料が市の指定文化財になっています。（※）代々家に伝えられている秘薬・妙薬

## みどころ1 膏薬の売買記録



売薬行商帳

左の帳面は、明治30年代から大正8年までの長森膏薬の販売の記録が記されており、薬を販売した相手の名前、住所、数量などの情報が残されています。

記録をみると、中泉や一言、見付といった磐田市内の地名は勿論のこと、静岡県内の志太郡や金谷、二俣、三ヶ日、舞阪などの地名もでてきます。また、愛知県や宮城県、北海道の地名もあり、県内外で長森膏薬が使用されていたことがわかります。

今回の展示では、この帳面のほか長森膏薬のポスターや販売時に使用した紙袋も展示します。

## みどころ2 一枚板の大看板

右の写真は、山田家の店先に置かれていた、江戸時代に作られた桜の木の一枚板の大看板です。高さ140 cm、幅73 cm、厚さ3.5～4 cmあります。

看板には「御免 御むそう 長もりかうやく 本家 山田与左衛門」と刻まれており、中央の上部には十六弁の菊の紋が刻まれています。

看板には逸話が残されており、看板にある「御むそう」は山田家が薬を作り始めたきっかけである「夢想（夢のなかでの神仏の啓示）」に由来していることや、幕末の大洪水のときに家やこの大看板が流されてしまいましたが、下流の村民がこれを発見し、大看板が無事に山田家に戻ったと伝えられています。

また、薬の評判と共に、看板の菊の紋についてもふれた「諸人の <sup>もろびと</sup>よき評判や 長森の 諸病に菊の五もんかうやく」(\*) という歌も残っています。

(\*) 掛詞が読み込まれています。

菊の五もん→(看板にもある)菊の御紋

→(諸病に)効く五文(売価)

一文は江戸時代全般を通じて平均した場合、約20～25円



長森膏薬大看板

## 期間限定！トピック展示



文化財課イメージキャラクターともちゃん

今後も、トピック展示コーナーでは、発掘調査資料や話題の遺跡などを随時とりあげて紹介していきます。

展示替えをおこなった際には、文化財だよりやホッとライン等でお知らせしていきます！

ふるさと歴史たんけん隊

# 『親子で発見！伊ワタの埴輪』

はにわ

## 参加者募集



しゅべい ©磐田市



令和6年度は、東京と九州の国立博物館で埴輪の特別展が開催されているほか、三重県出土の船形埴輪が新たに国宝に指定されるなど埴輪に注目が集まっています。

実は磐田市にも魅力的な埴輪がたくさんあります！「親子で伊ワタの埴輪」の魅力を発見してみませんか。

令和7年2月15日（土）10時～11時30分

- ところ 磐田市埋蔵文化財センター（磐田市見付 3678-1）
- 対象 市内小学校5・6年生とその保護者
- 定員 親子10組（子どものみの参加も可）
- 参加費 無料
- 申込み 1月14日（火）～1月31日（金）まで電子申請にて受付（右、二次元コードから申込みいただけます）
- その他 応募多数の場合は抽選  
抽選結果は2月5日（水）以降にメールにて連絡します。
- 問合せ 文化財課 TEL:0538-32-9699



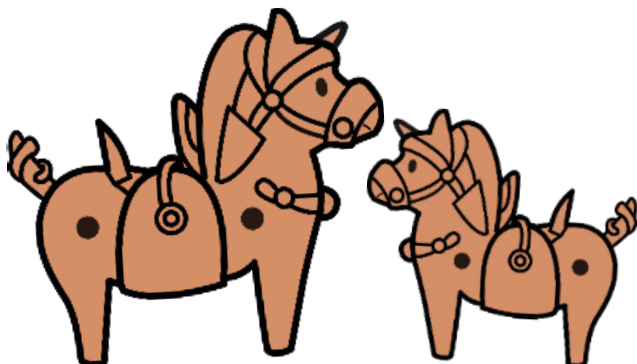
電子申請  
二次元コード

## イベント内容

### 講座：みんなも埴輪博士になろう！

- 埴輪ってなんだろう？
- 磐田市の埴輪にはどんなものがあるのかな？

どんな埴輪と出会えるかは  
当日お楽しみにっ！



### 体験：本物を見てみよう！

- 通常非公開の収蔵庫を特別に見学！
- 埴輪をじっくり観察してみよう！

# 文化財防火デーに伴い、旧見付学校で消防訓練を実施します

1月26日の文化財防火デーに伴い、旧見付学校で消防署と合同の消防訓練を実施します。つきましては、近隣の皆様、来館者の皆様には交通規制などご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

- 日時 令和7年1月26日(日)  
9時～11時30分(交通規制時間)  
※訓練時間 10時～11時
- 場所 旧見付学校(磐田市見付2452-1)
- 交通規制 旧見付学校南側駐車場と周辺道路  
(右地図赤線道路部分)  
※交通規制中の来館は見付駐車場をご利用ください
- 問合せ 旧見付学校 TEL:0538-32-4511



## 職員リレー コラム

### 沖縄旅行の思い出

加藤 一哉

夏に沖縄を訪れた際、偶然、緑十字機(※)の写真を目にしました。

沖縄市観光物産振興協会の「コザまちまーい」を利用して、<sup>こや</sup>胡屋地区のまち巡りをした時のことです。この胡屋地区は、基地の街、戦後沖縄の縮図と形容される沖縄市の中でも、異文化と接触しながらきわめて個性的な文化を創出してきた地区となります。



離陸する緑十字機

戦後に発生した「琉米文化」や「ちゃんぷるー文化」を感じられるスポットを巡る中で、「沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート」に立ち寄った際、降伏調印展示の一つとして緑十字機の写真が使用されていました。

まったく予期せずに見つけたわけですが、激戦地となった沖縄の方々の平和への想いと、緑十字機の果たした役割、そして鮫島海岸での救助の情景が浮かびあがり、沖縄との距離がぐっと近づいたように感じました。沖縄のまちでの小さな出会いでしたが、歴史を通じた感慨深い体験として、忘れられない思い出となりました。

(※) 緑十字機は太平洋戦争の終戦連絡処理を行う代表団を運んだ飛行機で、機体を白く塗り、翼に緑の十字のマークをつけていました。鮫島海岸で見発見された緑十字機の尾翼は、埋蔵文化財センターにて特別展示中です。緑十字機について詳しくは、文化財だより第82号、89号をご覧ください。

### 埋蔵文化財センター

磐田市見付3678-1 入館無料 8時30分～17時

国民の祝日、振替休日、年末年始(12月29日～1月3日) 電話 0538-32-9699



編集後記 文化財だより第237号の特集の森鷗外の生年が「1802」となっていました。正しくは「1862」です。お詫びして訂正いたします。(WEB版は修正後を掲載しております)

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)

